

プロジェクトの概要

琉球大学島嶼地域科学研究所
狩俣繁久

本書は、令和元年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」の成果を報告するものである。

我が国における言語・方言のうち、消滅の危機にあるものについて、ユネスコが平成21年に発行した“Atlas of the World's Languages in Danger”の内容及び、平成23年度から平成26年度にかけて大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所及び琉球大学島嶼地域科学研究所（平成30年4月1日に国際沖縄研究所から改称）が実施した文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業」及び「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係わる取組等の実体に関する調査研究事業」を参照の上、消滅の危機にある七つ（八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言）の区画のうち、琉球諸語に関わる6区画において、音声資料、調査研究が十分とは言えない地域の方言について、当該地域の方言の保存・継承に資するため、アーカイブとして公開することを想定した実地調査及びその分析（以下「アーカイブ研究」とする）、方言の保存継承に資する諸研究（以下「保存調査研究とする」）を行った。

本年度実施するアーカイブ研究については消滅の危機に瀕しているとされ、音声資料、文法資料の調査研究が保存・継承にとって十分ではない琉球諸語の6区画のうち、奄美語の鹿児島県大島郡瀬戸内町請（請島）、同じく奄美語の鹿児島県大島郡伊仙町（徳之島）、沖縄語の沖縄県国頭郡伊江村（伊江島）、同じく沖縄語の沖縄県うるま市宮城（宮城島）、同じく沖縄語の沖縄県島尻郡粟国村粟国（粟国島）島、八重山語の沖縄県石垣市川平（石垣市）、同じく八重山語の沖縄県八重山郡竹富町波照間（波照間島）の7地点において、将来のアーカイブ化を想定して臨地調査を行った。

本事業は、2年計画のものである。その1年目にあたる本年度は、本事業で調査対象地としている上記7地点での調査（音声資料を含む）は当該方言の文法的な特徴が分かるよう、動詞の活用体系および動詞を述語にもつ文の構文論的な特徴の概要を調査するための2種類の調査票を新しく作成し、それを基にした臨地調査を実施した。

なお、2年目にあたる来年度は、形容詞および述語名詞の形態論、および、名詞に接続する格助詞・取り立て助詞のリストとその例文の調査研究を行う計画である。この2年間の調査研究によって、当該方言の発音と文法に関する基礎的で総合的な記録保存が可能になる。また、本年度大きくリニューアルしたサイト「シマジマのしまくとうばー危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」を琉球大学島嶼地域科学研究所のホームページで公開する。

保存調査研究については、方言劇の効果についての調査を実施した。調査地点は鹿児島県与論町と鹿児島県瀬戸内町諸鈍集落（加計呂麻島）の諸鈍シバヤ及び沖縄県で演劇活動の指導に当たった経験のある学校教師へのインタビュー等を行った。

与論の「方言劇」は2017-18年の二回公演された新しい取り組みだが2019年は文化庁の補助金申請が通らず公演が叶わなかった。諸鈍集落の伝統的な芸能の諸鈍シバヤは台風の影響などで2017年と2018年の2年中止された。2つの事例が経験した「中断」を軸に地域社会の、特にそれぞれに深く関わった人々への聞き取りを記録し分析を試み共通した課題、問題などを検討した。演劇活動の指導に当たった経験のある学校教師へのインタビューから浮かび上がった学校教育の中で継続的に取り組むことの課題を検討した。これらの調査結果については、本報告書に収録している。

アーカイブ研究及び保存調査研究の成果については、令和2年2月17日に沖縄県那覇市にある沖縄県立青年会館で成果報告会を開催し、意見交換と討議を行った。本年度の成果については、琉球大学の島嶼地域科学研究所のHPに開設する本事業のHPで公開する。合わせて、事業報告書を作成し公表するものである。